

ジュニア賞

SHOES～自分じゃない誰かの日常～

武内 友里（高校3年生：東京都）

現代において、様々な疾患や障害を抱える人々に対するスティグマや偏見が人々の中に根強く残っている。例えば、糖尿病や精神疾患など外見だけでは分かりにくい疾患も多く、「自己管理不足だ」「気持ちの問題だ」という誤解が当事者の生きづらさに加担している。また、これらの偏見は幼少期から無意識に形成され、大人になっても修正されにくいという課題もある。このような理解不足は当事者の孤独感や自己否定感を招き、社会全体としても多様性の受け入れを妨げている。

そこで私は、「SHOES」というノベルゲームを提案する。このゲームは“To put oneself in someone’s shoes”という英語の慣用句の様に、疾患や障害を抱える他者の立場を実際に体験することが目的だ。主なターゲットは中高生などの若い世代で、価値観が形成されやすい段階で患者の視点を学び、スティグマの形成を防ぐことを狙う。まずプレイヤーは靴箱に並ぶ靴のアイコンから体験したい物語を選び、異なる疾患を持つ主人公たちの日常を追体験する。物語は実際に疾患を持つ人々の実体験を元に作成し、患者である主人公は食事制限や体調管理、人間関係などの日常的な課題に直面する。これらの課題にプレイヤーは選択肢を選びながら対処し、自身の選択によって主人公の未来の展開や結末が分岐する。ノベルゲーム形式にすることで、プレイヤーは患者である主人公と思考を共有し、日々直面する悩みや葛藤を体験し、単なる知識ではなく実感として他者を理解できる。

「SHOES」を通じてプレイヤーが疾患を持つ人々への理解を深めることで、誤解やスティグマの形成防止に繋がる。特に若い世代の他者への共感力を育むことで、将来的によりインクルーシブで思いやりのある社会を作ることができる。ゲームを通して多様性を尊重し、疾患や障害を持っていても誰もが受け入れられ、自分らしく生きられる未来への一歩を目指したい。